

## 3・12、3・13重税反対 全国統一行動について

戦後の日本では米国占領軍の費用をまかない、大資本の利潤を確保するために過酷な重税が国民に押し付けられました。米国の進駐軍がジープで乗り入れておこなう「ジープ徴税」など、強権的な税収確保が荒れ狂うなかで、全国各地でムシロ旗を立てた重税反対の税務署交渉などが展開されました。この戦闘的で毅然としたたたかいは、戦後の民主化闘争の大きな柱となり、今日の民商・全商連運動に脈々と引き継がれています。



民商はこのたたかいのなかで誕生し、全商連を結成しました。「自主計帳・自主申告・自主申告」今では当たり前のように使われていますが、戦前の旧憲法下ではお上

が勝手に税額を決めるといふ非民主的な税制がまかり通っていました。納税者自らが税法に基づいて所得や税金の計算をして税務署に申告する権利（自主申告）を認めさせたのは、新憲法の下で国民が主権者であることを税法上認めさせたことによるもので、自己決定権という法律上の考え方です。

民商・全商連では、1970年以降、政府の重税政策に反対し、労働組合・農民団体・中小業者団体・消費者団体に呼びかけ、多面的な税制要求や「税の使い道」への要求を結集して、「3・13重税反対全国統一行動」を続けてきました。その伝統と権利順守の一つのシンボリックな運動の取り止めは痛恨の極みではありましたが、「新型コロナウイルス」という未知の感染症拡大の心配から、集会・デモ行進・集団申告すべてを中止して事にあたることを常任理事会で決定しました。急な変更で役員の方々はじめ会員の方々にもご迷惑

をお掛けしたと思いますが、趣旨をおくみ取りいただき引き続きご理解ご協力をお願いしたいと思います。

税務署側は以前から集団申告に対し迷惑的な言動を繰り返してきており、今回の措置の後も「来年も今回の様に代表者がまとめてお持ちいただくに誠にありがたいんですが」と言われました。しかし、「今回は特別だから、来年は今まで通りです」ときつぱり答えました。《みんな、ガンバロー！》

## 民商へ仲間入り

3月に入り商工新聞読者で1名、会員で1名が民商へ仲間入りしました。読者の1名は、元読者である他団体の女性が来所された際に、事務局が再購読を依頼し、快く購読してもらったものです。会員の方は、前号のニュースでも触れましたが、会長が声をかけた元会員（内装業）さんが知り合いの新規開業した同業者さんを紹介。30代後半という若い業者さんで、帳簿や申告のことがほぼ分からず、民商に入ってパソコン記帳に挑戦することが決定しました。

## 所得税・消費税の申告・納付期限が延長

今月上旬、国税庁は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、所得税・消費税などの申告期限・納付期限を今年4月16日（木）まで延長すると発表。それに伴い振替納税の振替日も所得税を5月15日（金）、消費税を5月19日（火）としました。

## 自分でミスに気づいたら

申告書を出した後に、間違いに気づいた場合は、申告期限内に修正するのであれば原則として正しい申告書を再提出するだけでOKです。名前の上の方に赤字で「訂正」と大きく書いた申告書を出せば、前の申告書は無効になります。但し、再提出する場合は、前に

提出した申告書の「控」は捨てずにとっておき、後になつても「どの箇所をどのよう訂正したのか」が分かるようにしておきましょう。

なかには、納税額が少なすぎると気づいても、「見つかってモトモト」と知らんぷりをしている人もいます。ですが、申告者が自分で修正する前に税務署から税金の申告漏れを指摘されると、本来納めるべき「税金」とその「延滞税」の他に「過少申告加算税」まで取られて損をしますから注意しましょう。詳しくは民商まで。

## どうしても税額を用意できないときは

昨年10月の消費税率引き上げに伴い税額アップが会員を悩ませています。10%の税額が3か月分あるからです。それと雪国なのに暖冬小雪だったことに加えてコロナショック。納税にとつてトリプル三重苦です。先ほども書きましたが、国税庁は申告納付期限を一ヶ月・4月中旬まで伸ばしました。振替納税（口座引落し）を利用すれば5月中旬まで支払いを伸ばせます。また、延納制度を利用して、納税額の2分の1以上を期限内に納税すれば、残りは6月1日まで納税を伸ばすことができます。そんなことじゃとてもダメな方は、「換価の猶予」制度をお勧めしています。左記に書いてある要項で学習・相談会を実施します。詳しくは民商まで。



## 「換価の猶予」

### 学習・相談会

消費税の引き上げで納税額が増え、「一度に納付できない」という方が増えていきます。払えない事情や毎月いくらなら払えるかを相談しながら申請書に書き入れ、「換価の猶予」制度を利用して低金利で分納することができま。会場 民商会館3階

- 3月23日（月） 13：30
- 3月24日（火） 18：30